石狩湾系ニシンの漁況予報

北海道立総合研究機構　中央・稚内水産試験場

令和 2 年 12 月 7 日

石狩湾沿岸における今漁期（令和 3 年 1～3 月）の漁況は次のようになる見通しです。

○漁期序盤（1 月）: 5 年魚（2016 年級）と 6 年魚（2015 年級）の大型・高齢群が主体となり，来遊量は昨漁期並みの見通しです。ただし，この時期の漁況は水温分布などに大きく影響されます。

○漁期中盤（2 月）: 5 年魚～4 年魚（2017 年級）主体となり，来遊量は昨漁期並み～若干上回る見通しです。

○漁期終盤（3 月）: 4 年魚主体となり，来遊量は昨漁期並み～下回る見通しです。

本年10月に留萌沖で実施した試験調査船「北洋丸」によるトロール調査で採集されたニシンは，尾叉長28cmにモード（最頻値）のある4年魚（2017年級；2017年生まれ）が36%，尾叉長30cmにモードのある5年魚（2016年級）が29%，尾叉長31cmにモードのある6年魚（2015年級）が24%と高い割合を占めました（下図）。

これまでの漁獲実績に基づいた資源計算とトロール調査の採集状況から，各年齢の資源量を昨漁期と比べると，6 年魚と 5 年魚は昨漁期と同程度に豊度が高いことから「横ばい」，4 年魚も豊度は高く昨漁期に比べると「横ばい～増加」，3 年魚（2018 年級）は「減少」と予測されました。主漁獲対象である 4 年魚以上の資源重量としては，昨漁期と同程度であり 2009 年度から続く高水準にあると考えられます。

漁模様は漁期直前の海況に大きく左右されるため，地域間で好・不漁感の違いが出てくる可能性はありますが，石狩湾沿岸では水温分布等に大きな異変がなければ，漁期序盤（1 月）は 6 年魚と 5 年魚，中盤（2 月）は 5 年魚と 4 年魚，終盤（3 月）は 4 年魚がそれぞれ来遊の主体になると見込まれます。来遊量は漁期を通して昨漁期並みの見通しですが，中盤には来遊が多く，終盤には少なくなる可能性もあります。

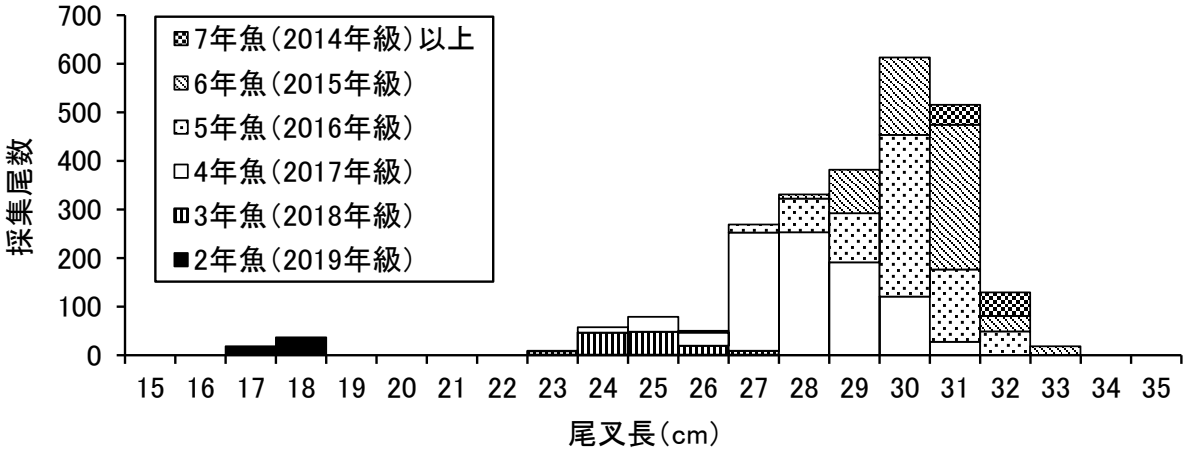

図　本年 10 月に留萌沖のトロール調査（北洋丸実施）で採集されたニシンの年齢別尾叉長組成

お問い合わせ：中央水試資源管理部（☎0135-23-8707）